

私は、東北地域の最も重要な資源は、間違いなく「人財」だと思う。

ある地域で「ワーキングホリデー」のお手伝いをした時、初めてグリーン・ツーリズム（都市・農村交流）のすゝまを知った。ワーキングホリデーとは、学生など若者が長期休暇期間に、泊まり込みで農家の収穫作業などを手伝うという、グリーン・ツーリズムの二形態である。

この時は、秋の農繁期にリンゴや柿などの収穫を行う仕事で、3泊4日の期間に10軒ほどの農家が、都市部から30人の若者を受け入れた。これから地域でワーキングホリデーを広げていきたいという



### 「人財」こそ資源

うめん。帰りの別れに涙ぐんで帰ったのがかわいくてたまりません。また来年を楽しみにしています。老人家族に久しぶりの新風でした」

今後の参加意向については、参加者が約9割、受け入れ農家は全員があるという結果となった。そして、何人も若者がこれをきっかけに定住したのである。

また、私が仕事で弘前市に行き、休日を利用して桜が満開の時期に、弘前城を観光ボランティアの方に案内いただいたことである。その方は主婦の方であったが、その時に聞いた言葉が今も忘れられない。

「プロジェクト地域活性」  
代表取締役社長

望月 孝

(仙台市)

意向もあり、実施後に参加者と受け入れ農家の方々から感想や参加意向についてアンケートに記入していただいた。いくつかの感想を原文のまま紹介したい。

参加者：「短い期間ではありましたが、就農がある程度真剣に考えている私にとっては、実際に農村に行き、寝泊まりし、農家の方と話をすることは、今後の活動において大変意義深いものでした」「今回参加の動機は、やはり将来的に就農したいと考えたからです。実際農業を始めようと思っても、技術はない、土地もない、お金もないわけですから、何をどう始めてよいのか、見当もつかない状態です。ですから、今回のような機会に就農相談的なことを行ってほしいという道が開けると思っています」

受け入れ農家：「良く話ができて良かったと思います。特に年寄り子どもがお姉ちゃんたちを取り合うようなところがあり、子ども（特に小6長女）は、バスターミナルまで送っていった後、次の日の夕方まで目をはらして泣いていたのには驚きました。それだけ印象が強かったのでしょう」「都会の青年にしては、とにかくまじめでした。そして、きちよ

## 東北の価値高める礎に

「私は生まれてずっとこの弘前に住んでいます。私は、この弘前が好きで好きでたまらないんです。だから、いろんな人に弘前のいいところを知ってもらい、弘前を好きになってほしいんです。まだ弘前にはいいところがたくさんありますよ」。弘前城の満開の桜の魅力以上に、この言葉を聞いただけで私も弘前のファンになってしまい、何度も訪れている。

「東北は歴史上ずっと、首都圏への食糧とエネルギーと人材の供給基地だった。そして現在も」。私が10年前に仙台に赴任した時に聞いた言葉である。供給基地とは、いいものを安く大量に供給する、いわば「草刈り場」ということになる。

東北地域には豊かな「自然」「温泉」、豊富な農林水産物を背景にした「食」、地域に色濃く残る「文化」など、競争優位な資源がたくさんある。これらの資源に付加価値を付け、ブランド化するのには、間違いなく地域の「人財」である。この掛け替えのない資源を、進学時、また就職時や転職時に、いとも簡単に首都圏へ供給しているのだ。もういいかげん、東北をそんな地域にしたいくない。